

インターンシップを通じて感じたこと

所属 生物資源環境科学府 生命機能科専攻

学年・氏名 修士2年 宮谷 友季子

株式会社 クロスエイジ

偶然書店にて目にした本をきっかけに会社の存在を知り、経営ビジョンや事業内容に強い興味を持ったことから、約2週間お邪魔させて頂きました。

まず驚いたことは、オフィスが本当に小さいことや社長をはじめ社員に若い方が多いことでした。私は今回のインターンシップ以前にも、農業法人など他のインターンシップにも参加経験がありましたが、それらの研修で感じた雰囲気とは全く別物でした。しかし、社長と社員の方々の距離がとても近く、ベンチャー且つ少人数の企業ならではの雰囲気を感じ取ることができました。

また、コンサルティングの仕事にも興味を持っていたことから、指導員の方から課題をもらいコンサルティングの手法を教えて頂きました。コンサルティングには、課題を的確に把握し、情報収集を行い、改善策を考え実行し、結果を評価するなど一連の流れがありますが、私は改善策を考える段階、つまり自分の考えを提示するステップでとても考え込んでしまいました。なぜなら、日々の研究であれば器具などを用いて自分の考えが大きく間違っていないか検証できるものの、コンサルティングの場合は試しが効かないためです。だからこそ、策を講じる前に必要な事前準備には何があるか、策を講じた場合に問題となることを想定するなど、策を講じるというのは単に意見を言うだけでなく脇固めが重要であることをしみじみと感じました。

この研修を通じて、コンサルティングの大変さを知るとともに、コンサルティングの手法は、自らの考えを検証できる点に違いはあるけれども研究と同じであること気がつきました。コンサルティングと研究は一見かけはなれたものですが、事象に対する取り組み方は同じであり、物事を深く考えることが求められる仕事です。時には深く考えても答えが出ずに辛く感じることもありますが、考えた分だけ前進しているのだとポジティブに考え、今後も色んなことを考え続けていきたいと思わせてくれたとても良い経験でした。